

義の祭 献物と燔祭とを喜び饗けん其の
時に人々爾の祭壇に犢を奠えんとす。

再度
主吾が生命の云々

聖エフレムの祝文

常に福

主吾が生命の主宰や怠惰と愁悶と陵駕と
空談の情を我に與ふる勿れ。 大拝一次

常に福にして全く玷なき生神女吾が神
の母なる爾を福なりと稱ふるは眞に當

貞操と謙遜と忍耐と愛の情を我爾の僕
(婢)に與へ給へ。 大拝一次

れりヘルワイムより尊くセラフイムに並
びなく榮え貞操を壊らずして神言を生み

嗚呼主王や我に我が罪を見我が兄弟を議
せざるを賜へよ。 蓋爾は世々に崇讚め

し實の生神女たる爾を崇讚む

らる「アミン」 大拝一次

神や我罪人を浄め給へ 十二次、每次小拝

爾の裁判に公なり夫れ我は不法に於て妊
まれ我が母は罪に於て我を生めり夫れ爾は
心に眞實のあるを愛し我が衷に於て智慧を
我に顕せり「イソプ」を以て我に沃げよ然
せば我潔くならん我を滌えよ然せば我雪
より白くならん我に喜びと樂とを聞かし
給へよ然せば爾に折られし骨は欣ばん爾の
顔を我が罪より避け我が蓋くの不法を抹
し給へ神や清潔き心を我に造り正直き靈を
我の衷に改め給へ我を爾の顔より逐うこ
と勿れ爾の聖神を我より取り上ぐること勿

れ爾が救ひの喜を我に還し主宰たるの神を
以て我を固め給へ我不法の者に爾の道を教
へん不虔の者は爾に歸らんとす神や我が救
ひの神や我を血より救ひ給へ然せば我が舌
は爾の義を讃揚げん主や我が唇を啓けよ然
せば我が口は爾の讚美を揚げんとす蓋爾
は祭を欲せず欲すれば我之を獻らん爾は燔
祭を喜ばず神に喜ばるゝの祭は痛悔の靈
なり痛悔して謙遜なるの心は神や爾輕じ
給はず主や爾の恵に因て恩をシオンに垂れ
イエルサリムの城垣を建て給へ其の時に爾

天の王

天の王慰むる者や眞實の神在らざる所
なき者満たざる所なき者や萬全の寶蔵
なる者生命を賜ふの主や来て我等の中
に居り我等を諸々の穢より潔くせよ至
善者や我等の靈を救ひ給へ

天主經

天に在す我等の父や願は爾の名は聖と
せられ爾の國は來り爾の旨は天に行は
るるが如く地にも行はれん我が日用の
糧を今日我等に與へ給へ我等に債ある

者を我等免すが如く我等の債を免し給
へ我等を誘ひに導かず猶我等を凶悪よ
り救ひ給へ。蓋國と權能と光榮は爾に世
世に歸す。「アミン」

第五十聖詠

神や爾の大なる憐に因て我を憐み爾が恵
の多きに因りて我の不法を抹し給へ屢々我
を我が不法より洗ひ我を我が罪より清め給
へ蓋我は我が不法を知る我の罪は常に我が
前に在り我は爾獨爾に罪を犯し悪を爾
の目の前に行へり爾は爾の審断に義にして

信經

我信われしん一ひとつの神かみ父ちち全ぜん能のう者しやてん天てんと地ち見みゆると見みえざる萬物ばんぶつを造つくりし主しゅを。又また信しん一ひとつの主しゅイイススハリストス神かみの獨生どくせいの子こ萬世よろづよの前に父ちちより生うまれ光ひかりよりの光ひかり眞まことの神かみよりの眞まことの神かみ生うまれし者ものにて造つくられしに非あらず父ちちと一いつ体たいにして萬物ばんぶつ彼かれに造つくられ我われ等ら人々ひとびとの為ため又また我われ等らの救すくひの為ために天てんより降くだり聖神せいしん及および童貞どうてい女によマリヤより身みを藉とり人ひとと為なり我われ等らの為ためにポンテイイピラトの時とき十字架じゆうじかに釘くぎうたれ苦くるしみを受うけ葬ほうむ

られ第三日だいさんじつに聖書せいしよに叶かなうて復活ふくかつし天てんに升のぼり父ちちの右みぎに坐ざし光榮こうえいを躡あらわして生いける者ものと死しせし者ものを審判しんぱんする為ために還また來きたりその國終くにのおはりなからんを。又また信しん一ひとつの聖神せいしん主しゅ生命いのちを施ほどこす者もの父ちちより出いで父ちち及および子こと共ともに拜おがまれ讚ほめられ預言よげん者しやを以もつて嘗かつて言いひしを。又また信しん一ひとつの聖せいなる公おおやけなる使徒しとの教會きやうかいを。我われ認わむ一ひとつの洗禮せんれい以もつて罪つみの赦ゆるしを得うるを。我われ望わむ死者ししやの復活ふくかつ並ならびに來世らいせいの生命いのちを。「アミン」